

令和元年度 政策評価表

総合的に取り組む重点課題	子どもを大切にすまちづくり	ゼネラルマネージャー	こども未来部長 本田 静香
--------------	---------------	------------	------------------

後期基本計画で掲げた取り組み方針

- 1 教育力の向上
- 2 子ども・子育て支援の充実
- 3 所沢市こども支援センターの整備

1. ゼネラルマネージャーによる活動計画

計画期間における方向性	<p>・教育については、学ぶなら所沢と言われる教育環境を実現するため、教職員の力量を高め、十分に力を発揮できる環境を創る。 ・子育てについては、子どもの成長を家族などの身近な人が喜びや生きがいとして感じることができる社会を目指す。</p>			
各年度の目標	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)
	<p>・教育環境の充実 ・子育て環境の充実</p>	<p>・教育環境の充実 ・子育て環境の充実</p>	<p>・教育環境の充実 ・子育て環境の充実</p>	<p>・教育環境の充実 ・子育て環境の充実</p>
各年度の活動内容	<p>(1)教育力の向上 ・学力向上支援講師を配置するとともに、「学び創造プラン」に基づき、学校・家庭・地域の教育力の向上を図った。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実 ・平成28年4月開園に向け、民間保育園2園の施設整備を進めた。 ・中富小学校放課後児童対策一体運営を実施した。 ・狭隘化、大規模化が著しい児童クラブの対象学校区への方策として民設民営児童クラブの導入準備を進めた。 ・利用者支援事業(ところっこ子育てサポート事業)として、こども支援課内に専門職員を配置し、子育て支援事業についての情報提供・相談・助言を行った。 ・子ども子育て新制度移行に伴い、利用時間が標準、短時間に分かれ、保育時間について正確な時間の記録をするため、各園にタイムレコーダーを導入した。 ・平成29年1月に開設予定のこども支援センターについて、専門機関と開設に向けた連携協定を締結するとともに、条例の制定や事業費の予算化を進めた。</p>	<p>(1)教育力の向上 ・学力向上支援講師10人を配置した。 ・「学び創造プラン」に基づき、教員の指導力の向上を図った。 ・教育用ICT環境を整備した。 ・次期学習指導要領改訂を踏まえ、英語や道徳の指導力向上のための研修を実施した。 ・不登校予防と児童生徒の学校復帰に向けた支援を進めた。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実 ・子ども・子育て会議を3回開催し、子育て支援に関する各種事業の進捗管理を行った。 ・「所沢市放課後児童対策実施方針」に基づき、泉児童クラブの泉小学校施設内への移転に向け、調整準備を進めた。 ・民設民営児童クラブを設置した。 ・こども支援センターを平成29年1月に開設し、子育て支援事業と発達支援事業を開始した。 ・利用者支援事業として、保健センターに妊娠・出産・育児に関する専門の相談窓口を設置し、情報提供・相談・助言を行った。 ・三世代同居(近居)を進めるため、関連事業を紹介するホームページを作成した。 ・すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための施策(いわゆる子どもの貧困対策)について庁内各課に調査を行い、情報共有を行った。</p>	<p>(1)教育力の向上 ・学力向上支援講師を10名配置により、担任等が児童生徒と向き合う時間が増えた。 ・学校・家庭・地域が一体となり、地域総がかりで児童生徒の学ぶ力の向上を目指した「学び創造アクティブプラン」をスタートした。 ・学校司書を2名増員し、新たに小学校4校に配置して読書活動の拡大を図ることができた。 ・新学習指導要領への移行を見据え、道徳及び小学校英語の教科化・早期化に向けた研修会を実施した。 ・今日的課題を踏まえた教職員の研修を充実させ、教師の授業力向上を図った。 ・不登校予防と児童生徒の学校復帰に向け、すべての学校の組織力を高めるとともに、関係機関との連携を促進した。 ・学校給食センターの再整備に向け、様々な手法について研究・検討を行うため、「給食センター再整備手法調査業務委託」を開始した。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実 ・子ども・子育て会議を3回開催し、子育て支援に関する各種事業の進捗管理及び中間年の見直しについて検討を行った。 ・児童館生活クラブの定員拡大や民設民営児童クラブの新設、泉児童クラブの移転等により放課後児童健全育成事業の充実を図った。 ・こども支援センター「大地」では、子育て支援エリア「ルピナス」と発達支援エリア「マーガレット」が併設されている強みを生かし、合同事業の開催を行い事業の充実を図った。 ・利用者支援事業について、育児相談や保育園・幼稚園等の利用方法などの子育て支援メニューの案内をこども支援課窓口及びこども支援センターで実施した。また、「子育て世代包括支援センター かるがも」において、助産師等の専門相談員が相談、助言及び関係機関等との連携により支援を行った。 ・所沢市ホームページで、三世代同居を進めるための施策に関する事業について掲載し、周知を図った。 ・すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための各事業について、関連事業を掲載している国のポータルサイトの内容を更新し、所沢市ホームページにリンクさせ、情報の周知に努めた。</p>	<p>(1)教育力の向上 ・学び創造アクティブプランにおいて学校・家庭・地域の教育力の向上を図り、今日的課題や次期学習指導要領の移行措置に伴う教職員の研修、授業研究会、研究報告会等を充実させた。 ・学力向上支援講師を2名増員し、12名配置し、個に応じたきめ細かな指導の充実と学校の課題解決や積極的な教育活動推進を図った。 ・各学校が地域の特性を踏まえ、創意工夫を生かした学校づくりを推進した。 ・全小中学校に対し、教育相談訪問を実施し、組織的な教育相談体制等についての指導を行うなど、不登校予防と児童生徒の学校復帰に向けた支援を進めた。 ・児童生徒に安全・安心な学校給食を安定的に提供するために学校給食センターの再整備(用地取得)を進めた。 ・暑さ対策として市内小中学校へ空調設備を設置するため実施した調査に基づき、「所沢市小中学校空調設備設置実施計画」を策定し、2020年3月までの設置に向け、基本設計・要求水準書を作成し、設計・施工一括請負事業者の選定を進めた。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実 ・子ども・子育て会議を3回開催し、子育て支援に関する各種事業の進捗管理を行うとともに、次期計画策定の基礎資料とするため、地域の子ども・子育ての実態を把握するアンケート調査を実施した。 ・児童館生活クラブの定員拡大や民設民営児童クラブの新設、泉児童クラブの建て替え等により放課後児童健全育成事業の充実を図った。 ・ところっこ子育てサポート事業について、育児相談や保育園・幼稚園等の利用方法などの子育て支援メニューの案内をこども支援課窓口及びこども支援センターで実施した。また、「子育て世代包括支援センター かるがも」において、助産師等の専門相談員が相談、助言及び関係機関等との連携により支援を行った。 ・こども支援センター「大地」では子育て支援エリア「ルピナス」と発達支援エリア「マーガレット」が連携し、合同事業や夏まつりを実施した。 ・すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための各事業を推進するため、次期計画策定にあたり実施したアンケート調査に関連設問を追加し、実態把握に努めた。</p>

2. 計画期間における目標指標

指標名	単位	策定時の 数値	H30年度 実績	H30年度 目標値	H30年度における 達成率
教育センター研修会の満足度	%	72.0	71.4	76.0	93.9%
地域子育て支援拠点施設の利用者数	人	126,685	294,344	256,000	115.0%
所沢市こども支援センターの利用者数	人	—	116,403	64,000	181.9%

3. 第5次所沢市総合計画後期基本計画内にある施策のうち「充実すべき施策」と感じている市民の数(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)

節 名 称		「充実すべき施策」と感じている 人数 (2,073人中)	割合	全42節中順位
第3章「健康・福祉」	第2節「子ども支援」	477人	23.0%	4位
第3章「健康・福祉」	第3節「青少年育成」	200人	9.6%	24位
第4章「教育・文化・スポーツ」	第2節「学校教育」	339人	16.4%	11位
第5章「産業・経済」	第5節「労働・雇用環境」	242人	11.7%	18位

4. 政策を構成する主要事業の進捗状況

事業名	H30 決算額 (単位:千円)	成果指標				
		指標名	単位	H30 実績	H30 目標値	達成率 (%)
学力向上支援講師配置事業	24,414	学校における検証結果(配置校校長の評価の「良い」以上の平均)	%	91	90	101%
「学び創造アクティブプラン」学力向上推進事業	5,320	研究委託校における参加者の人数	人	1,477	1,130	131%
学校トイレ改修事業	512,978	学校トイレの改修率	%	41	35	117%
所沢市子ども・子育て支援事業計画(第2期)策定事業	3,516	アンケート調査の回収率	%	56	60	94%
ところっこ子育てサポート事業	1,966	相談件数	件	1,058	885	120%
地域子育て支援拠点事業	75,587	地域子育て支援拠点施設の利用者数	人	294,344	256,000	115%
児童クラブ施設整備事業	61,013	児童クラブ人数の適正化率(大規模児童クラブ)	%	43	56	77%
妊娠・出産つづけてサポート事業	9,552	妊娠・出産について満足している親の割合	%	80	83	97%
乳児家庭全戸訪問事業	13,232	本事業による把握率	%	88	93	95%
三世同居リフォーム資金補助事業	2,841	三世同居リフォーム補助件数	件	20	15	133%
こども支援センター運営事業(子育て支援)	36,430	利用者満足度	%	99.2	100	99%
こども支援センター運営事業(発達支援)	141,372	発達支援利用者満足度	%	96.4	100	96%

5. 各取り組み方針における進捗状況

1 教育力の向上	2 子ども・子育て支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・「学び創造アクティブプラン」において授業改善に向けた研修会及び授業研究会等がより充実し、日常の授業の質が向上するなど教師の指導力向上につなげるとともに、学校・家庭・地域の連携を推進した。また、学力向上支援講師を2名増員し、配置校においては、専門的な教科指導の充実、県費教職員の教材研究等の時間の確保等、学校の課題解決に資することができた。 ・学校トイレ改修事業は、事業開始(平成26年度)以降、小学校18校と中学校10校において改修工事を実施した。 ・市内全小中学校で開催する家庭教育学級や、就学時健康診断の機会等を活用した子育て講座の実施などにより、家庭における教育力の向上を図った。 ・新たな学校給食センターの建設用地を取得した。 ・学習指導要領の改訂に伴い(TEA-Plan5年計画3年目)小中学校の英語教育に関する研修会や研究により教職員の指導力の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て会議を開催し子育て支援に関する各種事業の進捗管理を行った。また、アンケート調査により地域の子ども・子育ての実態を把握し、その結果を報告書にまとめた。 ・ところっこ子育てサポート事業として専門職員を配置し、利用者に対し、子育てや保育施設等についての情報提供・相談・助言を行った。 ・保育園や児童館など地域の24施設で地域子育て支援拠点事業を実施し、子育て親子の交流、育児相談、情報提供など子育て家庭への支援を行った。 ・環境改善(大規模化や老朽化等の解消)を図るため、児童クラブ施設整備事業による並木児童クラブの建て替えや生活クラブ定員拡大事業、民設民営児童クラブの新設により、放課後児童クラブの供給量を確保した。 <p>【供給量の内訳】 並木児童クラブ建て替え(34→53人:19人増)、ひばり児童館生活クラブ(24→60人:36人増)、さくら児童館生活クラブ(40→60人:20人増)。民設民営児童クラブ1か所新設(40人増)。合計115人増。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センター内に設置している妊娠・出産・育児に関する専門の相談窓口(子育て世代包括支援センター かるがも)にて、妊娠期から子育て期に関する情報提供や相談・助言を行った。
<p>3 所沢市子ども支援センターの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども支援センターでは、子育て支援エリアと発達支援エリアが併設されている強みを生かし、合同事業を開催し連携を深めた。 ・身近なセンターとして、発達支援の通所支援、相談支援、地域支援の利用者増を図った。 	

6. 平成30年度における目標の達成に向けた推進状況及び自己評価

記入日

R1.7.26

(1)教育力の向上

・「学び創造アクティブプラン」の取り組みにおいて、学校・家庭・地域の教育力の向上が図られ、今日的課題や次期学習指導要領の移行措置に伴う教職員の研修、授業研究会、研究報告会等を充実させることができた。

・学力向上支援講師は、30年度に2名増員して計12名を配置したことにより、個に応じたきめ細かな指導の充実と、学校の課題解決や積極的な教育活動推進を図ることができた。

- ・各学校においては、地域の特性を踏まえ、創意工夫を生かした学校づくりを推進したことにより、学校と地域の連携が深まった。
- ・全小中学校に対して教育相談室訪問を実施して組織的な教育相談体制についての指導を行うことなどにより、不登校予防や児童生徒の学校復帰に向けた支援が進んだ。
- ・学校給食センターの用地取得を行い、児童生徒に安全・安心な学校給食を安定的に提供するための再整備計画が進んだ。
- ・暑さ対策として市内小中学校へ空調設備を設置するため実施した調査に基づき、「所沢市小中学校空調設備設置実施計画」を策定し、2020年3月までの設置に向け、基本設計・要求水準書を作成し、設計・施工一括請負事業者の選定を計画通り進めることができた。

(2)子ども子育て支援の充実

- ・子ども・子育て会議を3回開催し、子育て支援に関する各種事業の進捗管理を行うとともに、次期計画策定の基礎資料とするため、地域の子ども・子育ての実態を把握するアンケート調査を実施した。また、すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための各事業を推進するため、アンケート調査に関連設問を追加して実態把握に努めた。委員の意見を踏まえ計画的に進めることができた。
- ・児童館生活クラブの定員拡大や民設民営児童クラブの新設、並木児童クラブの建て替えにより放課後児童健全育成事業の充実を図ったが、入所希望児童数が年々増加しており、大規模児童クラブや狭隘化の解消には至らなかったことから、引き続き、放課後児童クラブの定員確保を図る必要がある。
- ・ところっこ子育てサポート事業について、育児相談や保育園・幼稚園等の利用方法などの子育て支援メニューの案内をこども支援課窓口及びこども支援センターで実施し、相談内容に応じて「子育て世代包括支援センターかるがも」と連携し支援の充実を図ることができた。
- ・「子育て世代包括支援センターかるがも」において、かるがも限定オリジナル母子健康手帳を作成し、かるがもでの母子健康手帳交付数の倍増により、妊娠届出時からの助産師等の専門相談員による多数の面談に繋がった。また、必要に応じて地区担当保健師や関係機関等との連携により支援を行った。
- ・こども支援センターでは子育て支援エリアと発達支援エリアで、合同事業や夏祭りを実施したことで連携を深めることができた。また、発達支援においては、相談しやすい環境づくりにより相談利用者の増を図った。利用者満足度は、前年度より向上し、今後もその向上を目指す。

7. 政策会議における評価

記入日

R1.8.27

学力向上支援講師を2名増員し、計12名配置することで、学校教職員の負担が軽減され、子どもたち一人ひとりに向き合う時間を担任教諭等が確保できた点は教員の働き方改革にも繋がる取り組みであり、評価できる。また、児童館生活クラブの定員拡大、民設民営児童クラブの新設等放課後健全育成事業の充実を図ったが、それを上回る需要が増加しており、入所を望む全ての子どもが適正な環境で児童クラブに通えるよう、引き続き定員拡大を進めていく必要がある。今後も、家庭、地域、学校、市が共に連携し、全ての子どもたちの幸せを第一に、まちぐるみで子どもたちの成長を見守るまちづくりを進めていきたい。